

千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議 平成26年度 シーズ発表会 開催報告

日 時： 平成27年1月30日(金) 13:00－16:40

場 所： ホテルグリーンタワー幕張 ロイヤルクレッセント（千葉市美浜区）

参加者 59名

あいにくの雨模様の中、公的研究機関、自治体、アカデミア、建設、製薬、農業関係、ベンチャー企業等幅広い分野の方々に参加頂きました。

挨拶

千葉県商工労働部 産業振興課 課長 高橋俊之 より主催者挨拶を行いました。



シーズ発表プログラム

講演1 「ヘルスケア産業振興に向けた取組」

経済産業省 関東経済産業局 地域経済部次世代産業課 ヘルスケア産業室 室長補佐 石原優氏

経済産業省が取り組む、バイオ産業、医療機器産業、ヘルスケア（公的保険外サービス）産業における支援策マッチング支援、専門医療機器メーカーと、地域ものづくり企業とのマッチング支援、ヘルスケア産業振興の取組など各支援策の紹介を頂きました。



講演2 「先端診断が世界のライフサイエンスビジネスをリードする」

一般社団法人日本分析機器工業会 先端診断イノベーション担当主査
バイオディスカバリー株式会社 代表取締役

岩瀬壽氏

従来、バイオリフサイエンス市場では研究用計測機器が主であったが、癌、疾患の診断などに先端診断計測機器が用いられ始めている。これらの医療用機器の市場規模は、2020年頃には、約4兆円にも達する見込みである。バイオリフサイエンスビジネスは、コンパクトPOCT、先端診断機器、ビックデータを取り扱うインフォマティクス等が不可欠となっていく。日本分析機器工業会内に先端診断プロジェクトを立ち上げ、海外とも協業しアジアのハブを構築した。



講演3 「(食品)機能性代謝研究に役立つオミックス解析」

公益財団法人かずさDNA研究所 バイオ研究開発部 機器分析グループ グループ長 鈴木秀幸氏

網羅的遺伝子発現解析(トランスクリプトーム)やタンパク質解析(プロテオーム)の他、生体内の分子情報を利用し、総合解析する学問(オミックス)研究を行っている。かずさにてLC-MS分析の解析数値を組成式解析を用いエクセルデータに変換し、KEGGを用いた多変量解析表示が出来る金平糖ネットワーク解析ソフトウェアを紹介頂きました。このソフトウェアを使用することにより、短時間で定量解析が可能になり、様々なオミックス研究に応用することが可能になります。



講演4 「NITEにおける事業支援」

(独)製品評価技術基盤機構 バイオテクノロジーセンター 開発課 課長

鶴海泰久氏

木更津市かずさ地区にあるバイオテクノロジーセンターは、世界最大級(約80,000株)の微生物株を保有し教育、検定等に分譲しています。岩手県釜石市、北里大学との酵母を利用した醸造・発酵食品を開発する産学連携事業や二戸市漆(うるし)プロジェクトについて事例を御紹介頂きました。また、NBRCでは平成26年8月より微生物を預かる微生物バックアップサービスを開始したことを、報告頂きました。



講演5「事業紹介と植物バイオビジネス」

株式会社インプラントイノベーションズ 代表取締役

高根健一氏



独立行政法人理化学研究所発のベンチャー企業として、2003年3月に設立し、植物のバイオ技術(育種、組織培養、遺伝子組み換え、New Breeding Techniques)事業を行っています。

企業と共同し、ミラクリン産生トマトを開発に成功し大量にかつミラクリンを精製する特許も取得した。

商品化に向け、安全性試験を実施中。今後、糖尿病患者向けの甘味料や、ダイエットフードサプリメントとして米国市場を見据えています。ほか、植物を遺伝子組み換え技術を用い、光る花やクローン技術を用いコショウランなどを大量培養し市場に出荷しています。

まとめ：今シーズ発表会は、従来の特定した研究内容のシーズ発表ではなく、国の政策、支援事業の紹介
バイオ分野のビジネスのトレンド、会員企業様の事業紹介と幅広い内容でのご紹介でした。

今回は、内容を絞りご紹介させて頂くことを考えております。ご希望等ありましたら是非、ご意見を頂きますようお願い申し上げます。

ご希望連絡先：千葉県バイオ・ライフサイエンス・ネットワーク会議 事務局

公益財団法人かずさDNA研究所 企画管理部 事業推進課

E-mail: bio-network@kazuza.or.jp